

- 山行番 NO. 1775
日時 2017. 09. 19 (火) ~ 21日 (木)
山域 熊野奥駆道・和佐又ヒュッテ～大普賢岳～山上ヶ岳～青根ヶ峰～大滝
コース 19日=下土狩6:00-東名-伊勢湾岸道-刈谷-四日市-亀山-伊賀-大滝12:22-
タクシー-和佐又山ヒュッテ13:09 (泊)
20日=起床4:00-出発5:03-笹ノ窟(しょうのいわや)-大普賢岳7:18-女人結
界8:26-山上ヶ岳10:01-五番関・結界12:10-大天井ヶ岳13:12-
ニ蔵宿小屋14:09 (泊)
21日=起床5:05-出発6:13-四寸岩山7:13-青根ヶ峰下8:18-大滝林道終点
9:13-刈谷SA(入浴・食事)-下土狩17:00
標高差 上り=和佐又ヒュッテ約1150m~大普賢岳1780m=約630m
小笹の宿約1616m~山上ヶ岳1719m=約103m
五番関約1211m~大天井ヶ岳1439m=約228m
百丁茶屋約1050m~四寸岩山1236m=約186m
参加者 GT、KH、SI、MM、HY=5名
荷物 K=15kg位、G=12kg位、ほか10kg位

信仰の山とブナの森

19日(晴) Hの車で富士ICに向かい、Kと合流し、Kの車で第二東名に乗った。天気はイイ。大きな渋滞はなく予定より早く大滝着。ここからタクシーで和佐又山ヒュッテに行く。タクシーのドライバーは、川上運輸の松本健次さん。いろいろガイドしてくれた。30分程でヒュッテ着。料金は、10350-だった。

ヒュッテは古い建物で、綺麗でなかった。様々なモノが雑然と置かれていた。明日の登山口を確認した。若いグループのキャンパーがいた。他、バンガローに泊まる、大台ヶ原から来た、バイカー



和佐又ヒュッテ



ヒュッテ内

もいた。時間は十分あったのでイッパイやった。「リサ」という犬が、人懐っこかった。16時、風呂を沸かしてくれたので入った。大きな木製の浴槽で、なかなか良かった。夕食はインスタント物が多かったが、まあまあ良かった。ご飯が美味しく、腹イッパイだった。明日は早いので、すぐ休んだ。寝床は三段式ベットだった。宿料金は7560ー。

20日(曇時々小雨) 4時起床。朝食は出来て置いてあった。シャケ・納豆もあり、食べきれないくらいだった。ヘッドンで出発。朝やって来たオジサンもいた。オジサンは、この辺りは何回も上っていると言った。途中でオジサンが先行。

涼しい風の中進む。次第に岩っぽくなる。大普賢岳のトラバース道になると、朝日窟・笹ノ窟とか岩壁の岩屋が数ヶ所見られた。鉄梯子・鎖場をこなす。さながらミニ黒戸尾根で飽きなかった。天気は高曇りで、涼しい風がゴーゴーと吹いていた。今日は日本海側で悪天候予想だった。

急登をこなして、大普賢岳着。風が冷たかった。小休止し再び出発。辺りはシャクナゲの山だった。皆さんの意見では、葉がやや小さいとのこと。盛期は凄いだらうと思った。明王ヶ岳を過ぎて、阿



笹ノ窟



女人結界門と看板

弥陀ヶ森分岐。ここに例の厄介なモノ＝結界門があった。門の脇には、「登山者にお願ひ」と結界の趣旨が書いてあった。結界については、諸説がある。要するに女性蔑視・女性を不浄なモノと位置つけた考え。しかし、あの高野山でさえ、1906年、明治39年、女人禁制は撤廃された。それが、ここは未だに続けられている。一番、不可解なのは「世界遺産」でありながら、それが認められたこと。インターナショナルな現在、それが通用するとは・・・。

今回は通行に確信はなかった。ある意味、確信犯だった。そんな奴がいてもいいだろう。結果は、案の定、最悪だった。最初、宿坊とおぼしき所の若い輩に捕まった。そうこうしているうちに、年配のオヤジが出てきて罵詈雑言の嵐。「死ね馬鹿やろ〜」「日本男子が何を考えてる」「罰が当たるぞ」「崇りが掛かるぞ」等々。結局、押し問答だった。埒が明かないので、強行突破だった。ワン・ツー・スリーでダッシュした。彼らにもいい刺激であったと思う。今後は、せめて月1回、女性登山を認めるとかの措置が欲しいものだ。

しかし、何故それほど女性を忌み嫌うのか理解できない。自身の出生は、正に女性からだ。それを否定するのは、自己否定ではないだろうか。

女人禁制に関する詳しい記事

<http://www.jinken.ne.jp/gender/oomine/oomine4.html>

<http://www.jinken.ne.jp/>



山上ヶ岳



兎に角、小天井ヶ岳の結界まで急いだ。気分は最悪だったからだ。洞川（どろかわ）方面から多くの修験者が上って来る。何も言わない輩もいるが、ネチネチ問いただす輩もいた。聞くのは不快だから一人先を急いだ。

洞沢分岐を過ぎると、登山者は全く来なかった。やがて五番関・結界門着。結界門の「女」の彫刻が削られ、看板の漢字の「女性」と英文の「WO」がギザギザになっていた。やっぱり、反発は相当なものと感じた。ここでユックリ大休止。話題は「そのことばかり」だった。宿坊のオヤジの罵詈雑言がいつまでも、耳に残った・・・。



「女」が剥がされている

ここまで来れば、今日の宿、二蔵宿小屋は近かった。小屋はキレイな感じだった。ただ、先日の台風の影響で雨が吹っ掛け、床に溜まっていた。女子が雑巾で拭いてくれた。以前、泊まったKの話では、囲炉裏に薪を燃やせたと言うが、囲炉裏にはストーブが置かれていた。広い庭には、不動明王が祭られてあった。ここは水がないので今回、各自2リッター背負って来た。お蔭で、夕餉は美味しく



「女性」と「WO」が削られている

頂けた。私はKが上げてくれたビア2本を飲み、自身が上げた熱燗を飲んだ。しかし、今日の行程9時間の体には、霧散してしまった。暗くなれば寝るだけ。昔話に花が咲き、いつしか夢の中。ただ、知らなかったが夜半、小さなネズミがガサゴソで女性軍はワーワーカーカーだった。



二蔵宿小屋



不動明王



21日(快晴) 夜半は暑く、朝方ようやく冷えて眠れた。5時5分起床。東の空は真っ赤だった。小屋は天窗なので、明るくてよろしい。今朝も美味しい朝食を頂いた。Hが上げたバナナがデザートだった。小屋は最後、Sが丁寧に掃除をしてくれた。

出発前、庭の不動明王前で、朝のお勤めを行った。色々あったが、まずは感謝の心だ。荷物は大分軽くなった。四寸岩山を上れば、あとは下りのみ。モノレールに沿って下り切ると、林道に出る。林道を歩けば青根ヶ峰下に着く。下山はここから大滝に向かう。

静岡に帰ってから、このまま吉野に下れば良かったと、反省しきり。大滝に向かう、音無川は見事な清流だった。下り切れれば、一昨日置いた車が待っていた。帰りは、刈谷SAで入浴し、昼食を済ませ、ビア・熱燗をいただいて幸せだった。往復800km、Kの運転。お疲れ様、ご苦労様でした。

(了)



大普賢岳



小笹宿



小笹宿



二蔵宿小屋



